

科目名	建築構造力学演習	英語科目名	Exercise for Structure Mechanics		
開講年度・学期	平成 21 年度 通年	対象学科・専攻・学年	建築学科・2 年		
授業形態	演習	必修 or 選択	必修		
単位数	1 単位	単位種類	履修単位		
担当教員	本多良政、横内基	居室（もしくは所属）	建築学科棟 2F A-207、A-205		
電話	0285-20-2838	E-mail	y.honda@oyama-ct.ac.jp		
授業の達成目標					
構造物に作用する荷重によって生ずる応力を求めるための基礎を完全に理解する。					
1. 力のつりあい条件やつりあい状態を説明できる					
2. 静定構造物の応力を算定することができる					
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法					
1-2 演習テストの解答内容及び成績(60%以上)、レポートの内容により評価を行う。					
評価方法					
演習テスト(60%)、レポート(30%)及び授業態度(10%)で評価を行う。					
授業内容					
構造物に作用する荷重によって生ずる応力を求めるための基礎を理解するために、建築構造力学演習では力の概念、力のつりあい、静定構造物に応力の算定に関する演習を行う。なお、建築構造力学 I と平行して、演習を進めていく。					
1週目	授業ガイダンス、数学、物理の復習	16週目	静定梁の応力(5)		
2週目	力(1)	17週目	静定、不静定(1)		
3週目	力(2)	18週目	静定、不静定(2)		
4週目	モーメント(1)	19週目	静定トラスの応力(1)		
5週目	モーメント(2)	20週目	静定トラスの応力(2)		
6週目	力のつりあい(1)	21週目	静定トラスの応力(3)		
7週目	力のつりあい(2)	22週目	静定トラスの応力(4)		
8週目	力と力のつりあい	23週目	静定梁とトラスの応力		
9週目	反力(1)	24週目	静定骨組の応力(1)		
10週目	反力(2)	25週目	静定骨組の応力(2)		
11週目	部材の応力	26週目	静定骨組の応力(3)		
12週目	静定梁の応力(1)	27週目	静定骨組の応力(4)		
13週目	静定梁の応力(2)	28週目	合成骨組の応力		
14週目	静定梁の応力(3)	29週目	3 ピン骨組の応力		
15週目	静定梁の応力(4)	30週目	建築構造力学演習のまとめ		
キーワード					
構造力学、静定構造物、力、応力、応力図					
教科書					
武藤清他「建築構造力学」オーム社					
日本建築学会「ちからとかたち」丸善					
参考書					
和泉正哲「建築構造力学 1」培風館					
望月重他「建築構造のための力学演習」鹿島出版会 他					
小山高専の教育方針①～⑥との対応		(3)			
技術者教育プログラムの学習・教育目標					
-					
JABEE 基準 1 の (1) との関係		-			
カリキュラム中の位置づけ					
前年度までの関連科目		建築概論			
現学年の関連科目		建築構造力学 I 、建築一般構造			
次年度以降の関連科目		建築構造力学 II 、建築構造力学 III 、建築構造力学特論			
連絡事項					
1. 原則として毎時間、演習テストを行うので、授業を受ける際には予習を行ってること。					
2. レポートは必ず提出すること。					
3. 毎時間、三角定規を用意すること。					
シラバス作成年月日		平成 21 年 3 月 16 日			